



陣内俊 Prayer Letter

Designed by CORKSCREW DESIGN WORKS /2008/All Rights Reserved

2019年7-9月号

Vol.48

支援者の皆様へ

支援者の皆様、こんにちは。いつもお祈りと尊いご支援を感謝いたします。
2019年夏の、私たちの家族の近況をお知らせいたします。

●家族の近況報告。2歳になったかなえと、新しい命と。

9月21日は長女かなえの誕生日でした。神が2年間長女の成長を守り、家族を導いてくださったことに感謝します。子どもの成長には日々、驚かされます。英語圏には子育て中の親のことを「第二の子ども期 (Second Childhood)」と呼ぶ習慣がありますが、子どもを育てるということは、自分の過去と出会う旅でもあると感じた2年間でした。

また、夫婦で祈ってきた2人目の子どもを妻のお腹の中に授かっています。順調にいけば来年の2月に出産予定になります。家族に新しいメンバーが加わるにあたり、私や妻が神の前に今よりも大きな責任に備えて、健康が守られ成長していけますよう、支援者の皆様にもお祈りいただけますと幸いです。



●鬱症状の再発。病気との付き合い方。

2年間の燃え尽き症候群による鬱状態の療養期間を経て、2016年に活動を再開してから3年半が経ちます。その後幾度か、2~3週間ほどの「症状の再来」はありましたが、2017年の夏を最後に順調に仕事が出来ており、体力増進のために昨年春から始めた筋トレの効果も実感し、少しずつ自分に自信を持ち始めていました。

ところが今年の8月12日から、思考力の低下、ネガティブ思考の暴走、幸福感情の消失、不安愁訴、鉛のように思考と心が重くなる、、、といった症状がその日を境に次々と戻ってきて、ついには朝布団から出るのも苦痛になり、日常生活にすら支障を来すようになってきました。

2年間まったく忘れていた「魂の夜」が戻ってきて、今回は相当に動揺しました。結果的に9月後半に徐々にエネルギーと思考力が戻ってきましたが、様々なやるべきことがあるのに、一向に「脳が起動しない」状態に焦りが募り、自分と運命を呪うようになっていきました。自分の人格を乗っ取られ、別



妻が病気をキャラクター化した闘病時の絵本。
弱さや病を包摂することを今も学んでいます。

人になっていくような感覚は、何度経験しても「慣れる」ということはありませんし、脳の器質的異常による鬱の主観的な絶望感の深さは解釈によって減るものではありません。

イタリアの精神科医ロベルト・メッツィーナ氏の「Recovery is Discovery」（回復は発見）という言葉が、2年間の療養中に学んだ大切なレッスンでしたが、いざ鬱状態になってしまうと、「ただ辛いだけの時間にいったいどんな意味があるのだ」とやり場のない怒りが沸いてきます。今回ならば、まる1ヶ月以上、人生の時計が止まってしまいました。本も読めず、仕事も滞り、娘と遊ぶエネルギーもなくなりました。時間帯で症状に波はあるものの、仕事を再開できるようになった今でも、こういったハンディキャップを抱えることの意味について分からずにいます。8月、9月の間、「何が悪かったのだろう？どうすればこうならずに済んだのだろう？どうすれば避けられるのだろう？」とばかり考えて

ていました。注意深く生活していたので、何が悪かったのかも分かりません。

人生に起きることのすべてに意味を求めることばかりが良いとも思いませんが、こうした望まぬ出来事について、「何故？」と問いたくなるのは人の性です。使徒パウロは「肉体のとげ」が自分から去るように3度神に祈ったがそれは叶えられなかった、と教会宛の手紙に書いています（Ⅱコリント12:7～8）。この「肉体のとげ」には、てんかん、眼病、偏頭痛など諸説がありますが、鬱病などの精神的な病気だったのではと類推する学者もいます。それが何であったとしても、その症状は過酷で、「宣教活動の妨げにもなる」という理由からパウロが、心の底から健康を願ったことは想像に難くありません。私にとって突如襲ってくる鬱症状は、パウロの「肉体のとげ」によく似ているかもしれないと思いました。パウロはその直後にこう記しています。

しかし主は、「わたしの恵みはあなたに十分である。わたしの力は弱さのうちに完全に現れるからである」と言われました。ですから私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。ですから私は、キリストのゆえに、弱さ、侮辱、苦悩、迫害、困難を喜んでいきます。というのは、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

第二コリント人への手紙 12章9～10節

パウロの言葉の境地に達するにはまだまだ先が長そうですが、私に「肉体のとげ」が与えられているという恵みを、もういちど「恵み」として認識する機会を神が与えてくださったと感じています。キリストの力が私を覆い、神の働きにこれらも用いられよう、お祈りいただけますと幸いです。

フィリピン GWF と、旧友との再会

6月後半にフィリピンのマニラを訪れ、ローザンヌ運動主催の「Global Workplace Forum (以下 GWF)」に参加しました。4000名を超える参加応募の中から選考された、世界110カ国から900人が参加する国際的な集まりで、その過半数はビジネス界で働く職業人という5日間の会合です。私は3年前から日

本ローザンヌ委員会の後援で「よにでしセミナー」を通して GWF の目指す「職業と宣教の統合」に取り組んできた経験を、さらにアップデート出来ることを期待して参加しました。これまで「Business as Mission (宣教としての仕事)」ということはよく言われていましたが、今回の GWF では「Business IS Mission」(仕事はそれ自体、神の働きそのものである)ということが強調されていました。それはビジネス・医療・教育・福祉、、といったいわゆる職業のことだけを言っているのではなく、「子どもを育てる」「家庭を守る」「無償で地域や教会に奉仕する」といった仕事のことにも包摂されているのだ、と語られました。「仕事」は、格差や搾取、資源の枯渇や社会の分断など、世の中に問題を造りもするが、同時にそれらを解決もします。キリスト者が職業領域で影響力を発揮することこそ、この社会に「神の国のインパクト」をもたらす主要な手段だというメッセージに私も賛同します。

GWF の後、私はフィリピン滞在を 3 日間延長し、大学時代の旧友であるレネ・ベガさんご一家と再会しました。当時帯広畜産大学で博士論文を書く留学生だったベガさんと私は一緒に大学生伝道の活動にいそしみ、毎週のように彼の家で祈り会を開いていました。彼は私の信仰の最初の 6 年間を一緒に歩いてくれた「信仰のお兄さん」のような存在です。17 年ぶりに再会を果たした私たちは、大学教授である彼の職場のフィリピン大学ロスバニョス校のキャンパスで、この 17 年の互いの信仰の旅路について分かち合いました。ベガさんは農学の研究者として「農村部の貧困を解決する学術論文」のコンペティションで、世界第 2 位に入賞し、イギリスで発表を行ってきたことなどを分かち合ってくれました。また、大学教授をする傍ら、地域の貧困家庭のための子ども食堂を主催するなど、職業を通して生活を通して、総合的・包括的に他者に仕え続けています。彼の生き方こそ、GWF が目指している「Business is Mission」そのものだと感じ、非常に大きな励ましと靈感を受けました。



世界 110 カ国からの参加者とともに聖書から「仕事の意味」を学ぶ。

「職業領域に神の国のインパクト」を、が全体テーマでした。



ベガさん夫妻（奥）と息子で作曲家として活動するダレン君

(ダレン君と出会ったとき、彼は 2 歳でした)

よにでしセミナー第三期

今年も、「世にあって弟子として生きる社会人のための週末合宿（よにでしセミナー）」を開催します。GWF で学んだことなどを生かしつつ、今年も他にはない濃密な学びの機会を提供できるよう、目下準備中です。参加者一人一人にとって素晴らしい機会となりますよう、お祈りいただけますと幸いです。開催は 11 月 22 日（金）～23 日（土）の 2 日間、第三期の今年は淡路島での開催です。興味がある方は、FVI ホームページ (karashi.net) で詳細をご確認ください。

祈りの課題

◇純子、俊、かなえの健康が支えられ、家族で喜んで神に仕え続けられるように。

◇2人目の出産まで、母子ともに健康が守られるように。

◇よにでしセミナーなど、様々な奉仕を通して神の国のために用いられるように。

◇FVI、および「陣内俊を支える会」の経済的必要性が支えられ、働きが継続していけるように。

2019年10月以降の主な活動予定

月 日	内 容	場所、補足
10月28日	FVI 総会	本郷台キリスト教会（横浜市）
10月30日	非常勤講師として授業	帝京科学大学（東京都）
11月22～23日	よにでしセミナー第三期	南淡路休暇村（兵庫県）
11月24日	活動報告	津田キリスト教会（香川県）
12月1日	礼拝で奉仕	御影福音教会（兵庫県）
12月13日	クリスマス講演	コドモの園幼稚園
随時継続的に	包括宣教の各種活動	国内各地

* 上記は現在まで分かっている暫定的な範囲の予定です。

連絡先

〒202-0014 東京都西東京市富士町 4-4-15-402 「陣内俊を支える会」代表 牧恵子 070-5573-9337

陣内への Email shun@karashi.net 無料メルマガ、YouTube 放送、ブログなど→「陣内俊」で検索

支援のための献金方法

私の活動は、支援者の皆様の善意の支援献金によって支えられています。経済的支援をもってご協力くださる方は、お手数ですが以下のいずれかの方法で口座にお振込ください。ご支援を心より感謝いたします。

- ゆうちょ銀行口座番号 12110-91889141 名義：「陣内俊を支える会」
- 他行からの振込 店名（店番）：〇八九（ゼロハチキュウ）（089）預金種目：当座
口座番号：0142825 「陣内俊を支える会」
- 郵貯振替口座番号 00830-1-142825 名義：「陣内俊を支える会」
(同封の振込用紙がご利用いただけます。)

* 振込用紙をご入り用の方、ゆうちょ口座からの自動引き落としを利用されたい方はお知らせください。

* 振込用紙（赤色・手数料当方負担）を同封いたしますが、振込用紙は決してご支援を催促するものではありません。お振込くださるときにご利用ください。（毎月ご利用の方のために複数枚同封しています。）

* Prayer Letter の購読、自動引き落としを停止されたい方、またはお届け先の住所に変更がある方は、お手数ですが、上記連絡先のいずれかにご連絡ください。